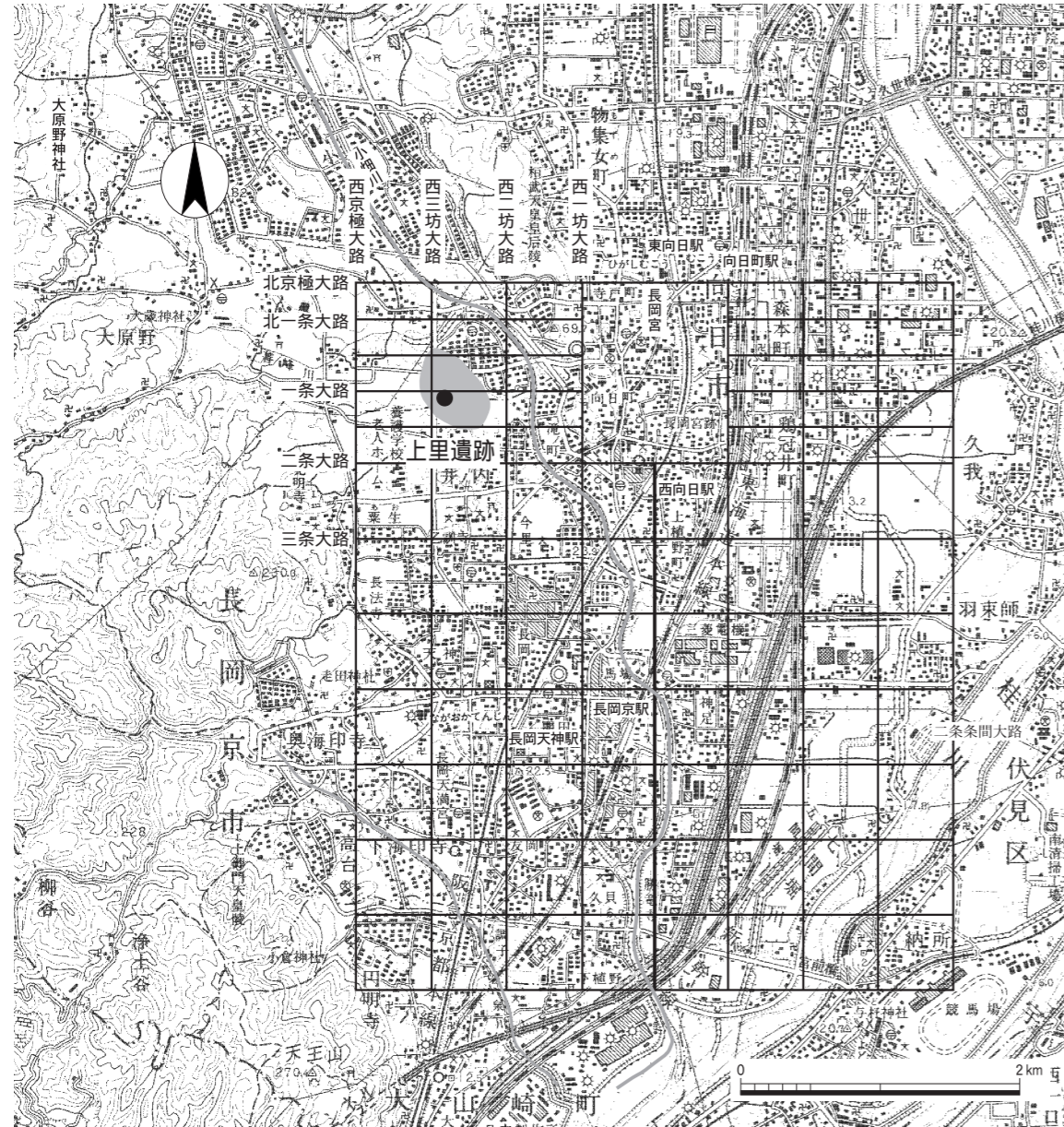


# 上里遺跡発掘調査現地説明会資料



2005年 11月 12日 (土)

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

場 所 京都市大原野西京区上里南ノ町、長岡京市井ノ内北裏  
 期 間 2005年 6月～継続中  
 調査面積 A区: 2700m<sup>2</sup>  
 調査主体 (財)京都市埋蔵文化財研究所

## 1 はじめに

この調査は道路新設工事(伏見向日町線)に伴う発掘調査です。2002年度から継続して調査を進め、今年度は、文化センター通から東側の道路予定地を調査しています。現在は、予定地の西側に調査区(A区)を設定して調査を開始し、順次東側に調査を進めて行く予定です。

## 2 調査地周辺の様子

調査地のある上里一帯は縄文時代から中世に至る上里遺跡の範囲に含まれています。これまでに実施した調査では、縄文時代の土壌墓や弥生時代の方形周溝墓・流路、古墳時代の竪穴住居・掘立柱建物・土壌・溝などが発見されています。また調査地の西南の段丘上には、古墳時代後期の前方後円墳である井ノ内車塚古墳や井ノ内稻荷塚古墳などがあり、ほかに井ノ内古墳群、芝古墳群など小型の古墳が集まった群集墳があります。

奈良時代の終わり頃には長岡京がおかれ、当地一帯は長岡京の右京の北部にあたります。これまでの調査で一条大路南側溝を発見し、その南側の宅地には掘立柱建物や井戸が散在していたことを確認しています。今回の調査地は長岡京右京二条三坊九・十六町にあたります。

さらに、平安時代の掘立柱建物・溝、中世(鎌倉・室町時代)の掘立柱建物・溝・土壌などの遺構を確認しています。

## 3 発見した遺構

調査では、古墳時代の竪穴住居 7 棟や掘立柱建物 4 棟以上、柵列 2 列のほか、北から南東へ流れる自然流路などを発見しました。これらの遺構は新旧 2 時期に分かれます。

### 古い時期の遺構

竪穴住居群がこれにあたります。竪穴住居(竪穴住居 1～7)はいずれも方形で、一辺が 3.5m 前後の小型のもの(竪穴住居 1)から 6m 前後のやや大型のもの(竪穴住居 3)があります。内部には柱穴がほぼ 4 カ所あり、壁際には壁溝と呼ばれる溝が巡っています。また、カマドが付いていた痕跡があるもの(竪穴住居 3)もあります。

### 新しい時期の遺構

掘立柱建物群と柵列がこれにあたります。掘立柱建物(建物 1～4)はいずれも柱間 2m 前後で桁行 2 間、梁間 2～3 間の小型の建物で、内部に柱穴のない建物(建物 1)と内部に柱穴のある建物(建物 2・3)があります。内部に柱穴のある建物は重量物を収納する倉庫と考えられます。

A-3 区では北西から南方へ流れる自然流路(流路 1)を発見しました。流路は幅約 6m、深さ約 1m 前後で、粘土・砂礫が堆積していました。ここからは土師器や須恵器などの土器が多くみついています。この流路の東側にはさらに大規模な流路(流路 2)があり、さらに調査区の東側に広がっています。

この他に長岡京期の一条大路南側溝、掘立柱建物 3 棟、堀 1 条、井戸 1 基などもみついています。

4 遺物

竪穴住居や自然流路などから古墳時代の土器がみつかっています。土器は須恵器の杯・杯蓋・高杯・甕、土師器の壺・甕などがあります。

5 まとめ

今回の調査では、古墳時代に竪穴住居で構成された集落が掘立柱建物の集落に変わっていくようすが明らかになりました。その時期はおよそ6世紀の後半と考えられます。

また、調査区の東側でみつかった流路は集落の境と考えられます。

2003年度の調査ではこの時期の溝が2条みつかり、これを集落の西境と考えると、この集落は東西 220mの範囲であると考えられます。

BC 300	A D 300	600	710	784	794		1192	1300	1500	1600
縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	長岡京期	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代

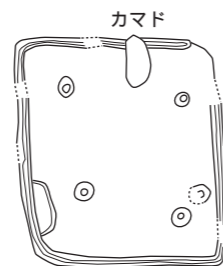
竪穴住居・掘立柱建物

掘立柱建物・井戸

略年表



竪穴住居内の様子

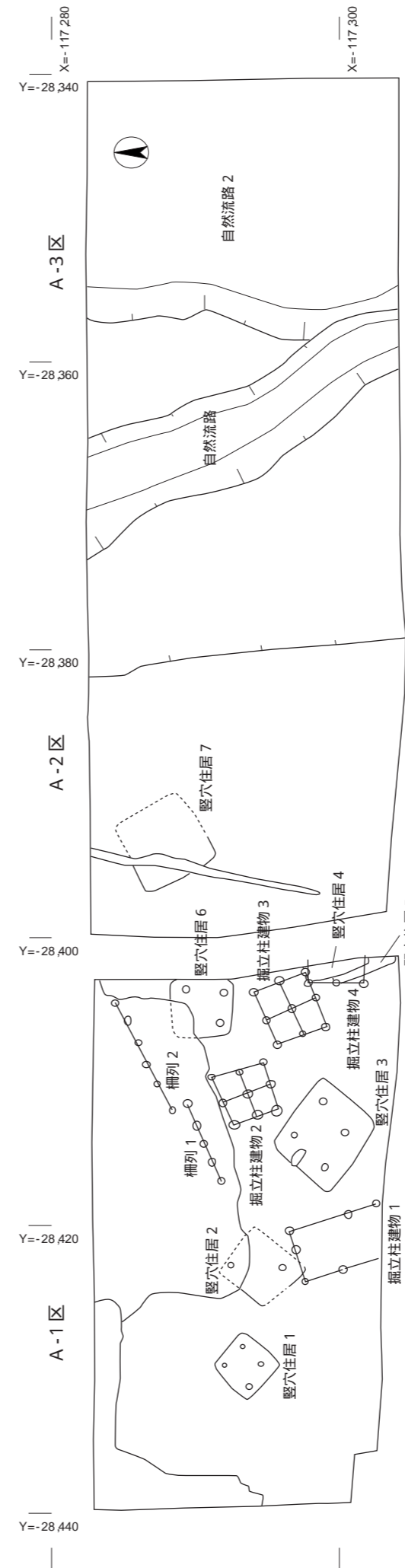


竪穴住居 3

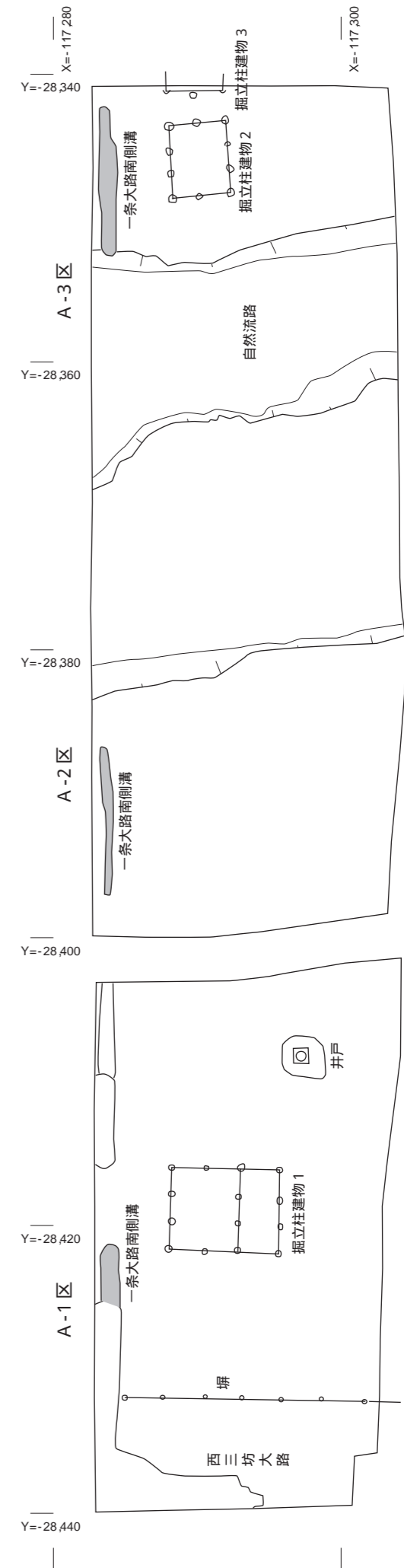


現在の団地一戸分

住居規模比較図 (1 : 200)



古墳時代



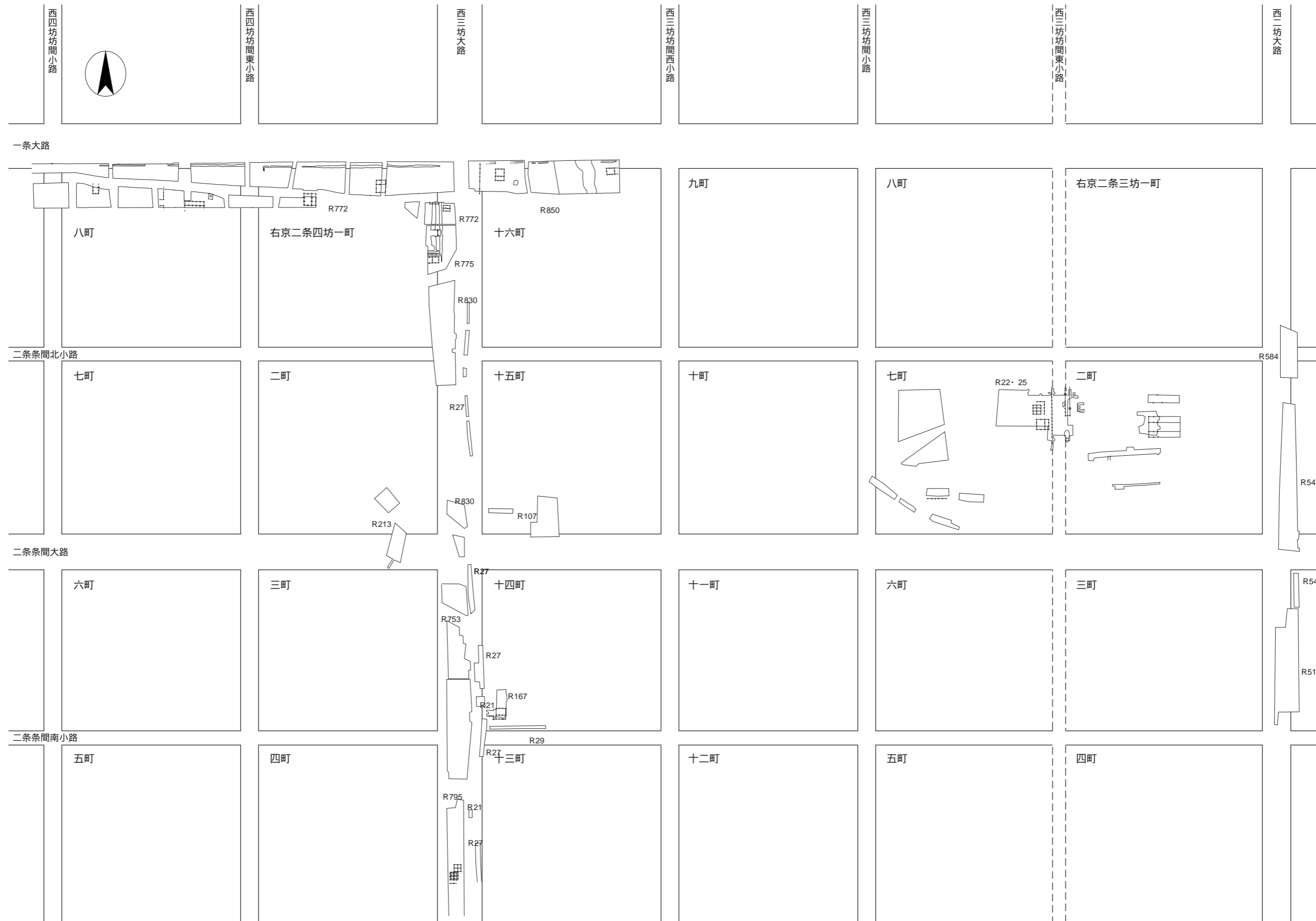
長岡京期

遺構平面図 (1 : 400)









調査地周辺の長岡京期遺構概略図 (約 1/2,500)